

## 巻頭 Photo 高尾山の生きものたち ルリビタキ (ヒタキ科)



とてもさわやかな青い鳥。冬に高尾にもやってくるルリビタキだ。スズメ位の大きさで、すっきりした容姿。身体のわりに眼が大きく、クリっとして可愛い。

冬枯れの高尾の林道で出会ったとき、灰色っぽい景色の中、ルリビタキの青色一点だけが、鮮やかだった。「ヒッ、ヒッ」と鳴くので、この声で近くにいるとわかる。木々を移動し、ときどき地面に降り餌を探す。青いのは雄で雌は緑褐色。どちらも腹面は白く体側面にオレンジ色の羽毛がある。繁殖地は、亜高山など寒冷な針葉樹林帯で、4月になると高い山に戻っていく。

こんな美鳥に会える自然はとてもワクワクする。  
(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

### 二美ちゃん 富ちゃん 皿ちゃんの



当センターでは、小学生や一般の方に伏せ焼やドラム缶窯を使用した炭焼きを指導している。その時に4mくらいの竹筒を使用し、炭焼きをやってる時に煙突から出る煙を冷やして竹筒を伝わって冷えた液体をバケツの中に溜める。その時にポタポタ落ちる黒っぽい液体を指に当てたものをどんなものか体験してもらうために少しだけ味見してもらっている。

大人の反応は「えっ舐められるんですか?」とおそるおそる液体の落ちる先に手を差しのべて舐めてみる。「えっ。初めてだけどおいしい。」

子供は、興味津々な顔をしながら液体に触ってなめてみると、「変な味、酸っぱい」と隣の子と顔を見合わせながらにこにこし出す。お互いに何か秘密を共有したような気持ちになるのかもしれない。

体験してもらった後に、竹酢液の文字を見せて酢だから酸っぱいんだよと説明しているのだが、本当の竹酢液の成分って何なのかと疑問がわいてきた。そんなときに無限窯というホームページに竹酢液の成分分析表が載っていた。許可を取って成分を載せた。やはり酢が一番多かった。(富)

無限窯の竹酢液の分析結果	
竹酢液の成分	含有量・物性
酢酸	4.12%
プロキオン酸	0.25%
フェノール	820ppm
グアヤコール	690ppm
フルフラール	670ppm
3,4-ベンソピレン	検出せず
比重(15度するとき)	1.011
pH	2.5
滴定酸度	75.9

試験依頼先: 財団法人日本食品分析センター  
試験成績表発行番号: 第100062624-001号

**【竹酢液の種類】**  
「粗竹酢液」: 炭化時に生じる排煙を冷却させた液体。いわゆる採りたてのもの。  
「竹酢液」: 粗竹酢液を最低3ヶ月以上静置させ、上層の軽質油、下層の沈降タールを除いた中層の液体。  
「原液竹酢液」とも呼ばれています。  
「蒸留竹酢液」:

竹酢液を加熱し、沸点差を利用して蒸留した液体。



採取した竹酢液



竹酢液採取の様子



## 江東区立南砂中学校

「私は、林業というものは10割が力仕事だと思っていました。でも、林野庁の仕事について学び、また、測量や製図を教わり、間伐等を体験させてもらい林業にはいろいろな仕事、役割があることを知りました。今回の体験をレポートにまとめ、クラスみんなに林業について伝えたいと思います。今回の体験は忘れません。ありがとうございました。」

「僕は、職場体験を通じて、林業というものに対して、とても興味が持てるようになりました。ほとんどのことが初めての体験でとても刺激になったし、ものすごく楽しかったです。特に、間伐作業で、1本の木を自分ひとりで切り倒した時の達成感は忘れられません。本当に楽しかったです。ありがとうございました。」

2月7日、8日に東京事務所及び当センターへ職場体験学習に訪れた、江東区立南砂中学校2年生の男女2名が書いた感想文の一部です。わずか一日二日の体験でも、いろんな事を学び感じてくれていること、体験を楽しんでくれていることに受け入れる側としてはうれしいかぎりです。毎年、数校の中学校からの要請を受け、生徒の職場体験学習を実施していますが、どの学校の生徒からも同様の感想が聞かれ、体験を通じて少なからず森林・林業に興味を持つ機会となっているのではないかと感じています。

特に、2人がわずか十数分で書いた感想文を読み、体験することの重要さを感じ、今後、さらに充実した職場体験学習の場となるよう努めなければと思った今回の職場体験受け入れとなりました。(谷)

安全第一。怪我をしないように、慎重にノコギリを入れます



センサーカメラ  
回収作業中



## 相模原市立作の口小学校

2月9日、相模原市立作の口小学校で、5年生108名が森林教室を体験しました。

最初は、視聴覚室で森林の働きを解説した森林学習を実施しました。受講後「間伐材は何に使用されているのか?」「林業に従事している人の減少問題」などの多くの質問が有り、児童たちは森林・林業への関心を高めていました。

森林学習後は、校庭に移動して植物の生長の仕組みの説明を受け、6班に別れてヒノキの丸太切り体験です。慣れないのこぎりで丸太を切るため、思うように切れない子や上手に切る子などいましたが、一人2~3枚切っていました。

閉校式では、「森林(人工林)は人が手入れをする」と人の役に立ってくれるのが分かりました。」など、森林の持つはたらきを知って、森林を大切にしたいとの感想も聞こえてきました。(Ⅲ)



結構かんだん?  
でも手が痛い



みんな熱心にノートをとります



## 多摩市立 連光寺小学校

2月13、14日の二日間、多摩市立連光寺小学校の5年生65名を対象に、出前森林教室（伏焼き窯による炭焼き体験）を実施しました。森林総合研究所多摩森林科学園が管理している連光寺試験林を利用して、森林や環境について学習します。

一日目の午前中は6班に分かれての炭焼き体験でしたが、地面に穴を掘る作業から火入れまで全て子どもたちを中心に行いました。みんな泥まみれになりながらも無事に作業を終了しました。

午後からは森林の働きや炭について、パワーポイントによる講義を実施しました。

二日目はいよいよ窯出しです。小学生の炭焼き体験は、毎回同じ結果にならないのが不安でもあるのですが、窯から出してみると無事に出来上がっていたので安心です。そして、炭をみんなで分けて閉校式となりました。(磯)



煙が止まらない  
よーくにあおげあ  
おげ！

大収穫！たくさ  
んできましたよ。



## 八王子市立 上川口小学校

2月20、21日の二日間、八王子市立上川口小学校で、炭焼き体験の出前森林教室を開催しました。

5年生8名が学校の裏山にある伏焼き窯で炭焼きを体験しました。竹材は児童が裏山の竹林を整備したものです。

一日目は、男子班・女子班に分かれて炭焼き、各班とも一生懸命やったおかげで、火入れも順調に進んだので、おのおの持ち寄った松かさや折り紙を空き缶に入れて花炭を仕込みます。缶を火に掛けて、一段落したところで先生が用意したマッシュマロを焼き、皆とても美味しそうにほおばっていました。その後全校生徒が花炭作りを体験しました。

午後の森林学習では、森林の働きを勉強しました。

二日目は窯出しです。児童はわくわく、職員はドキドキの瞬間です。土と鉄板と落ち葉を丁寧に取り除いてみると「ワァ〜！」と歓声が上がりました。

炭焼きは大々成功です。出来上がった炭は地域のイベントで販売し、売上金は寄付する予定だそうです。

和気あいあいな空気の中、閉校式では全員から楽しかったなどの感想を聞くことができました。(皿)



一生懸命あおぎ  
ます！

なんと！おたか  
らわんわん！



## 平成29年度・森林林業等交流発表会

本年度開催(2月22日、23日)の森林・林業技術等交流発表会において、発表課題「充実した森林環境教育の実施に向けて(磯田専門官と松本専門官)」を森林ふれあい部門で発表し、日頃から当センターが取り組んでいる成果等を広く周知することができました。惜しくも賞は逃しましたが、さらなる森林

環境教育の場として発展させて行きたいと考えます。(屋)



発表の様子

# 平成30年度 森林カレッジ受講生募集

高尾山で自然とふれあいながら森林・林業について学んでみませんか。

## 【カレッジⅠ】

日程  
平成30年5月19日(土)  
内容  
講義「森林の見方」  
森林散策  
講師  
一般社団法人森林・自然  
環境技術者教育会会長  
桜井 尚武 氏

## 【カレッジⅡ】

日程  
平成30年7月7日(土)  
内容  
講義「森に学ぶ～森づくり  
ことづくり ひとづくり」  
体験作業(下草刈り)  
講師  
東京農業大学教授  
宮林 茂幸 氏

## 【カレッジⅢ】

日程  
平成30年10月13日(土)  
内容  
講義「木の成長としくみ」  
体験作業(間伐)  
講師  
元多摩森林科学園園長  
三輪 雄四郎 氏

## 【カレッジⅣ】

日程  
平成31年1月19日(土)  
内容  
講義「森林の恵みと共に  
炭焼き、そして森の香り」  
体験作業(炭焼き)  
講師  
東京大学名誉教授  
谷田貝 光克 氏

**募集人数**：30人(応募者多数の場合は抽選とします)

**対象者**：森林・林業に興味があり、18歳以上70歳未満の健康で急傾斜地での作業や山歩きが可能な方。

**申込方法**：往復ハガキに、①住所、②氏名(ふりがなをいれる)、③年齢、④職業、⑤電話番号(自宅と携帯電話)を記入のうえ、高尾森林ふれあい推進センター「森林カレッジ係」までお申込みください。

**申込締切日**：平成30年4月13日(金)必着

**参加費等**：傷害保険料として350円(年間保険料)程度ご負担いただきます。

※日程及び内容は変更する場合があります。

## 【お問合せ先】

関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844

東京都八王子市高尾町2438-1

TEL：042-663-6689

FAX：042-663-7229

※お問合せは、土日祝日を除く開庁日の8:30～12:00、13:00～17:15の時間帯にお願いいたします。



編集後記

今年も花粉が飛びはじめました。潤んだ瞳は時に魅力的なものですが、私の場合は血走って殺気を感じると言われます。普通のマスクをすると顔がかゆくなるので、頭からすっぽりかぶるマスク(黄色)を買おうかと検討しています。見た目なんて、もうどうでもいいのです。(松)

Forest 通信 NO.349

発行:林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先  
林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター  
〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1  
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>